

自己免疫性消化管運動障害について

自己免疫性消化管運動障害（autoimmune gastrointestinal dysmotility；AGID）は2008年に米国で提唱された疾患概念で、食道アカラシア、胃不全麻痺、慢性偽性腸閉塞症（CIPO）を含む重篤な消化管運動障害を呈する症候群（Clinical Gastroenterology and Hepatology2008;6:988-992）。



AGID は、自己免疫性自律神経節障害 (AAG) の限局型ともいわれ、抗自律神経節アセチルコリン受容体 (gAChR) 抗体をはじめとする各種の自己抗体が介在する疾患と定義されています。



また、自律神経症状として起立性低血圧／起立不耐症、膀胱機能障害を併発する頻度が高いことも明らかになっています。治療は、免疫療法が有効である可能性が示されています。